

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol consumption and risk and prognosis of atrial fibrillation among older adults: the Cardiovascular Health Study. 高齢者における飲酒と心房細動のリスク及び予後の関連 : the Cardiovascular Health Study	
<b>執筆者</b>	
Mukamal KJ, Psaty BM, Rautaharju PM, Furberg CD, Kuller LH, Mittleman MA, Gottdiener JS, Siscovick DS.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Am Heart J. 2007 Feb;153(2):260-6.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、心房細動、ハザード比	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 飲酒と心房細動のリスクとの関連については、これまでの研究で見解は統一されておらず、また飲酒と心房細動の予後との関連については決まった見解はない。</p> <p><b>方法：</b> アメリカ4地域の65歳以上の地域住民を対象としたコホート研究である The Cardiovascular Health Study のうち毎年ビール、ワイン、アルコール飲料の消費について報告している 5609 人を対象とした。心房細動症例の同定は、通常の心電図所見に基づき行い、入院後退院時の診断にて確認した。</p> <p><b>結果：</b> 平均追跡期間 9.1 年の追跡の間に 1232 例の心房細動例があった。非飲酒者に比べ、多変量調節ハザード比は、過去飲酒者では 1.25(95%信頼区間(CI):1.02-1.54)、週一回未満飲酒者で 1.09(95%CI:0.94-1.28)、週 1-6 回飲酒者で 1.00(95%CI:0.84-1.19)、週 7-13 回飲酒者で 1.06(95%CI:0.82-1.37)、週 14 回以上飲酒者で 1.09(95%CI:0.88-1.37)であった(トレンド p 値: 0.64)。心房細動を有する対象者 1384 名で死亡に関するリスクを解析すると、ハザード比は、以前飲んでいていた人では 1.27(95% 信頼区間 (CI):1.06-1.52)、週一回未満飲酒者で 0.94(95%CI:0.76-1.18)、週 1-6 回飲酒者で 0.98(95%CI:0.78-1.23)、週 7-13 回飲酒者で 0.73(95%CI:0.51-1.03)、週 14 回以上飲酒者で 0.81(95%CI:0.59-1.11) であった(トレンド p 値: 0.12)。</p> <p><b>結論：</b> 現在中等度飲酒をしていることは心房細動に罹患するリスクと関連はなかった。同様に心房細動に罹患している人の中等度飲酒も死亡リスクとは関連がなかった。しかし過去に飲酒したことありという情報は、心房細動の発症のリスクが高い人、および心房細動に既に罹患していて死亡のリスクが高い人を同定することができる。</p>	